

## 2020 年度第 2 回愛知県 D X 推進本部有識者会議

### 議事録（主な意見）

#### ●議事「次期 ICT プランの中間とりまとめ（案）について」

発言者	発言内容（要旨）
岩田彰 座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル化した資産を使って新しいサービスを作り、それによって生活を変革していくことが「DX」と考えている。デジタル化、デジタルライゼーション、デジタル・トランスフォーメーションの 3 ステップが書いてあると、手順がわかりやすくなる。</li> <li>・現在のプランが生活目線であったのに対し、次期プランは行政推進目線となっている。生活目線でわかるような、表題を付けていただくと分かりやすいのでは。</li> </ul>
安田孝美 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国の上位計画や、e-Japan 戦略、骨太方針 2020 といった取組の概要など、これまで国や県でどのように情報化に取り組んできたか、施策の方針等を総論としてしっかりと盛り込むとよい。</li> <li>・国の動きに遅れないようにしっかりと対応していくということがまず肝要。その上で ICT の施策をどうするかといういわゆるオリジナリティ、愛知県らしさをどう作っていくかということが次に問題になってくる。</li> <li>・国の方で設置される DX 推進委員会は非常に重要な委員会。県の中で DX を推進していくためにはこういった横串を入れて垣根を越えた優秀な若手の皆さんのチームで DX 推進委員会みたいなものを作られていくと、しっかりとした ICT 推進ができるのでは。</li> <li>・管理職に対する ICT 教育も大事だが、行政パーソンに対する ICT 教育がそれ以上に大事。エンジニアと行政パーソンで ICT に関する知識の差が大きい。将来的には、ICT の本質を理解した行政パーソンがしっかりとプランニングできるような状況にしていくことが必要。</li> <li>・アジャイルっていうのが ICT の非常に重要な施策。走りながら考えていくというようなことを、県庁の施策としてどこまで許せるか権限を持ってらっしゃる方がしっかりと枠組みを作っていくといけない。</li> <li>・国の方で設置される DX 推進委員会は非常に重要な委員会。県の中で DX を推進していくためにはこういった横串を入れて垣根を越えた優秀な若手の皆さんのチームで DX 推進委員会みたいなものを作られていくと、しっかりとした ICT 推進ができるのでは。</li> <li>・学校、介護、保育の ICT 化について、GIGA スクールといったインフラ整備や介護ロボット等のハード前だけでなく、サポート体制についてお考えいただきたい。人とか予算を、ICT を絡めて解決してほしい。</li> <li>・フラッグシップになるような、ICT を推進するとこんなに便利だよねというものをユーザー目線で、行政のデジタル化の一つの例として挙げていただきたい。</li> </ul>

発言者	発言内容（要旨）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通死亡事故を無くす目的で、自動車メーカー等が様々な取組をしているので、そういったものを応援するような形をしていただけたらいい。</li> <li>・ICTを活用してマイクロリズムをどう振興するかってことも考えておいていただいていた方がいいんじゃないか。</li> <li>・せっかくジブリパークができるので、デジタルコンテンツ産業をこの地域で盛り上げるよう、デジタルコンテンツに関するテーマを挙げてはどうか。</li> <li>・高齢者のデジタルデバインド対策として、リタイアしたビジネスパーソンが地域に入ってICTのレベルを上げるといった取組をしてはどうか。</li> </ul>
小栗宏次 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「デジタル化」と「デジタル・トランスフォーメーション」が混在しており、デジタル化もできていない行政がその先にあるDXも併せてやろうとしているように見える。5年のプランの中で、まずデジタル化を進め、その先でデジタルライゼーションにより構造改革を進めるというような順序立てを記載した方がよい。</li> <li>・次期ICTプランにおいて、DXに向けてこれからの愛知はこうあるべきというようなことを示すことで、各部署が今取り組んでいることを見直せるようになるとうい。</li> <li>・デジタル化はスピードが早いので、人材育成が大事。産業に関わる部分で人材育成も位置付けるように考えたほうがよい。</li> </ul>
奥田美穂 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各取組に段階的な成果目標を設定し、ロードマップを作って進捗管理を行う。必要に応じて短いスパンで計画を見直すことも必要。</li> </ul>
竹本憲 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国の動きが早く、骨太の方針では、デジタル・ガバメントの構築をこの1年で集中的にやっていくとされている。国の動きを受けて直ちに動くことができる受け皿のような組織が必要。県の組織体制の強化が大事である。</li> <li>・今日の資料では、デジタル人材育成は全て「行政の効率化DXの推進」の枠組みの中に入っているが、産業人材の育成は、産業のデジタル化と一緒にするとか、「デジタル人材育成」を4つ目の視点として外出しするとか、その辺の位置付けも考えられた方がいい。</li> </ul>
前田みゆき 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例えば、電子申請のシステムを作っても、使われなければ意味がない。これをする事で、どういうことがよくなるといった具体的な効果や目標も含めて記載するとわかりやすい。</li> <li>・DXを目標として置くのも一つの選択肢で問題じゃないと思う。できれば、そこに至る段階的なステップを示せるとよい。</li> <li>・急激な社会変化があるようなら、途中で計画を見直すことがあってもよい。</li> </ul>
井上あい子 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者に対して、単に携帯電話やパソコンの使い方の研修ではなく、県民の生活に直接結びつくような研修を実施したり、若い世代には、映像製作、VR、eスポーツの分野など、ちょっと遊び心を散りばめた取組があると、さらに深みが増す。</li> </ul>